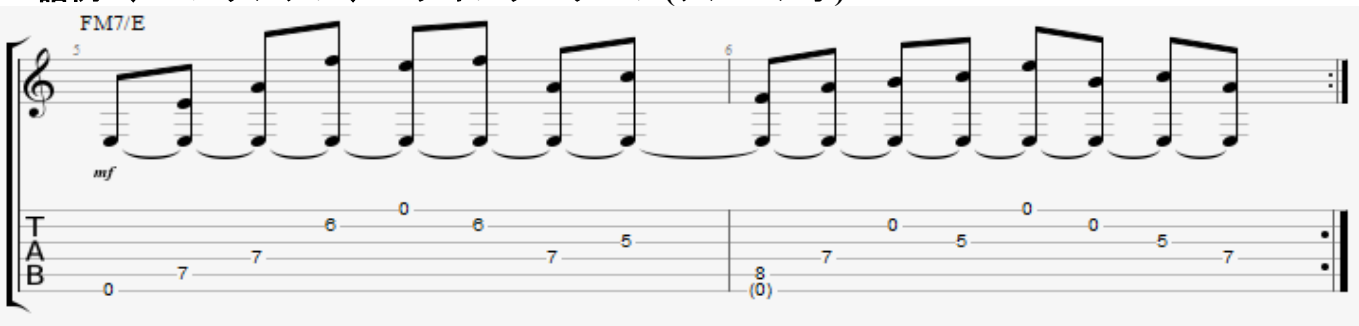
vol.21　フリジアンスケールの使い方について　～その 3～

では、vol.21、始めていきましょう。

今回でフリジアンスケールについては最後になります。

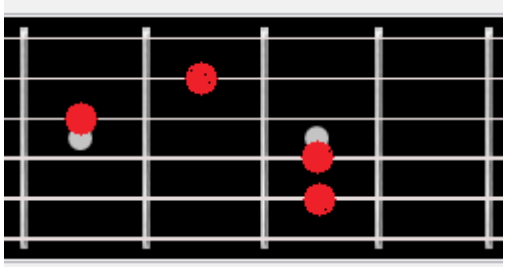
前回は、フリジアン・モードを作り出すコード進行を見てきたので、ここでは実践的なフレーズ(バッキング)を考えていきます。まずは以下の譜例を弾いてみて下さい。

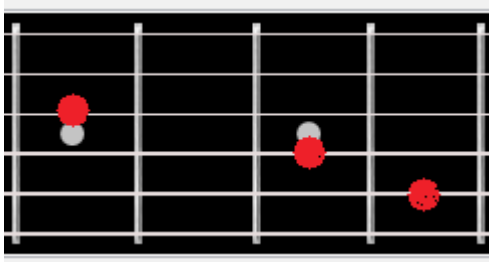
譜例 1、E フリジアン、バッキングパターン(アルペジオ)



想定テンポは BPM120～くらい、メタル系楽曲のイントロ等にありそうな感じですね。クリーントーンで弾きましょう。

コード・ヴォイシングはこの様になっています。





次は、単音系のフレーズです。テンポは BPM180～くらいを想定していますが、そのままではかなり速いので、最初はゆっくり弾いてみて下さい。

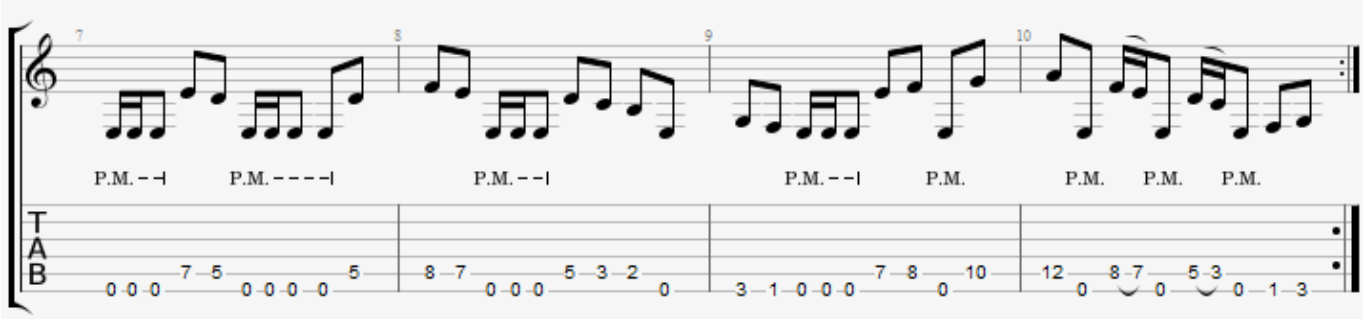
こちらもメタル系にありそうなリフです。ディストーションを掛けてザクザク弾きましょう。

フレーズにあまり一貫性を持たせない、ランダムなパターンにしてみましたが、こう言った事をやるならば、プログレの様に変拍子で作ってしまった方がわかりやすいかもしれませんね。

一応、ここでは、コンパクトさを重視して 4/4 拍子で記していますが。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

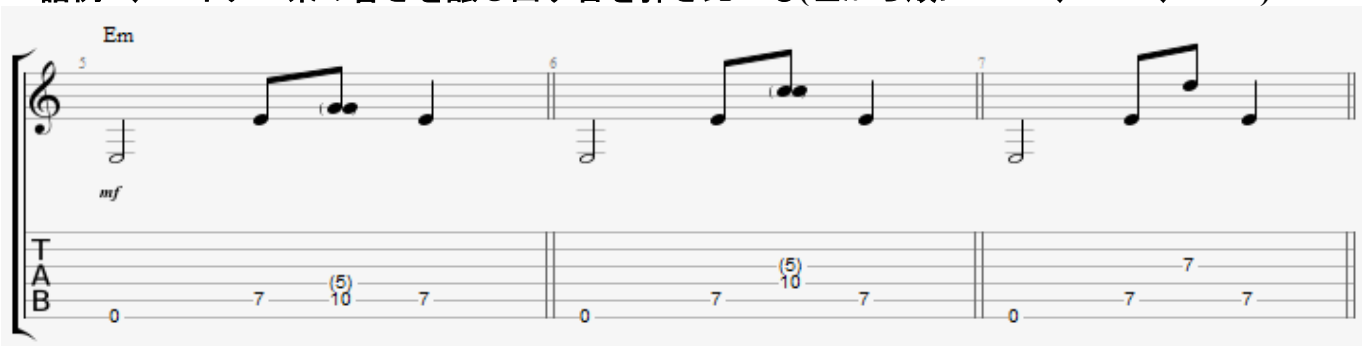
譜例 2、E フリジアン、バッキングパターン(単音リフ)



さて、2 つほど譜例を見てみましたが、フリジアンは基本的に暗い響きのモードなので、ポップスなどのジャンルでメインに使う事はそこまで多くないでしょう。
(※アレンジとして特定の箇所で使ったりするのは十分考えられますが)

暗い(マイナー系の)響きを出す代表的な音としては m3rd があり、そこに m6th や m7th が続きますね。

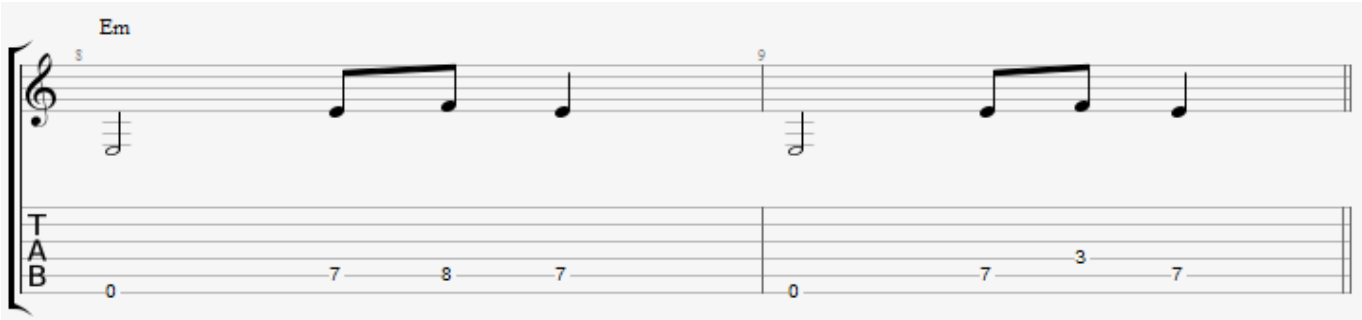
譜例 3、マイナー系の響きを醸し出す音を弾き比べる(左から順に m3rd、m6th、M7th)



(※カッコにしてある音は同じ音程が出るフレットです。この譜例はフレーズとして作っているものではないので、譜割りを気にせずに音を聴き比べてくみて下さい)

ですが、今回のテーマであるフリジアンの特性音「m2nd」は、これらに比べてもダークですね。

譜例 4、m2nd の暗い響き



先ほどの譜例 1、2 も、m2nd を絡めた、かなり暗めのフレーズでした。

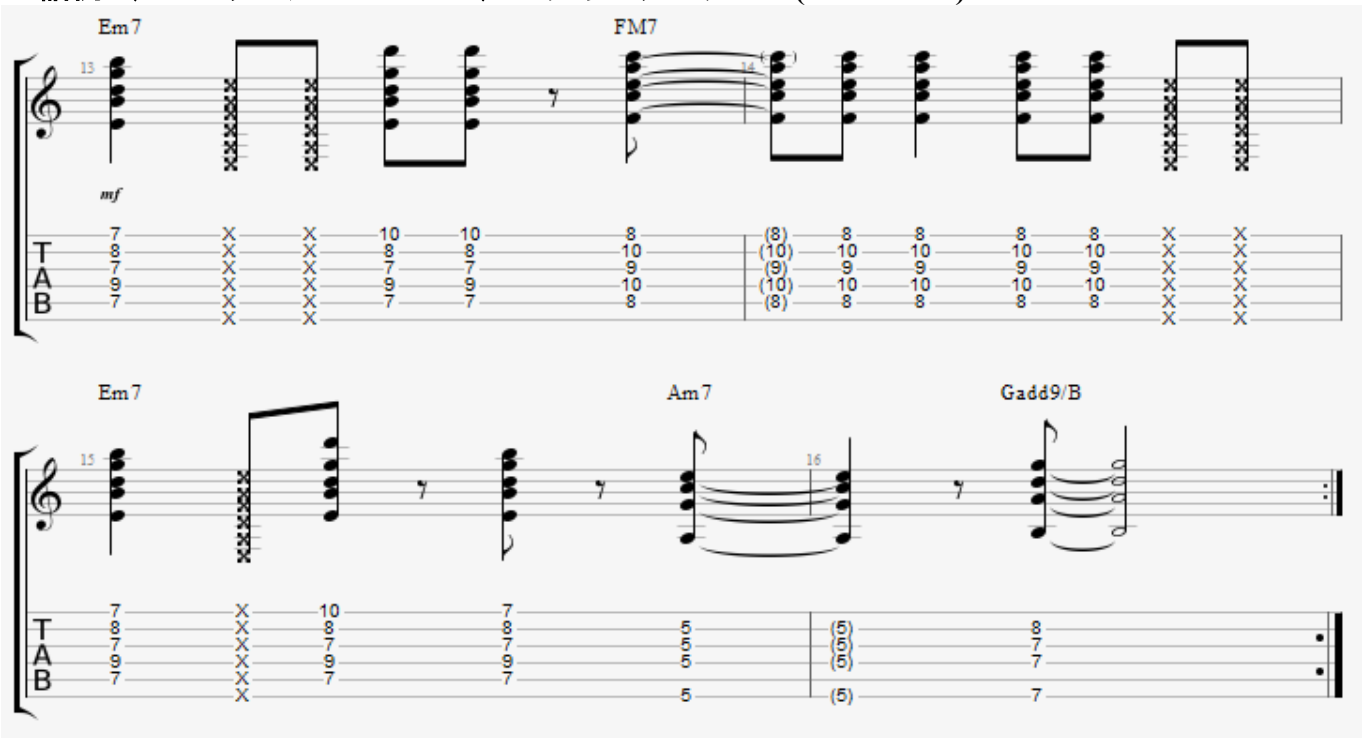
Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

なので、フリジアン・モードを使いたいけど、そこまで響きを暗くしたくない場合、1 度のコード(今は Em7)とそのコードに対する m2nd(Em7 の場合は F 音)の音を同時に共存させないようにすれば、ある程度はどんよりした感じを薄めることが出来ますね。

(※と言っても、他のパートの音使いによっては普通に暗くなりますが)

以下は、フリジアン・モードで暗さを薄めてみたバッキングパターンです。

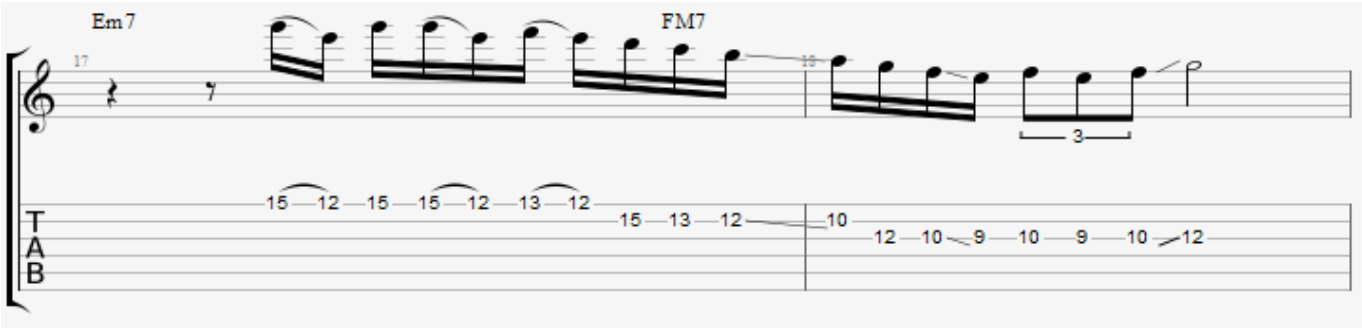
譜例 5、E フリジアン・モード、バッキングパターン(BPM135～)



そもそも、譜例 1、2 とは違い、コード・チェンジを含めて構造自体を大きく変えていますが、この様にすることも可能です。

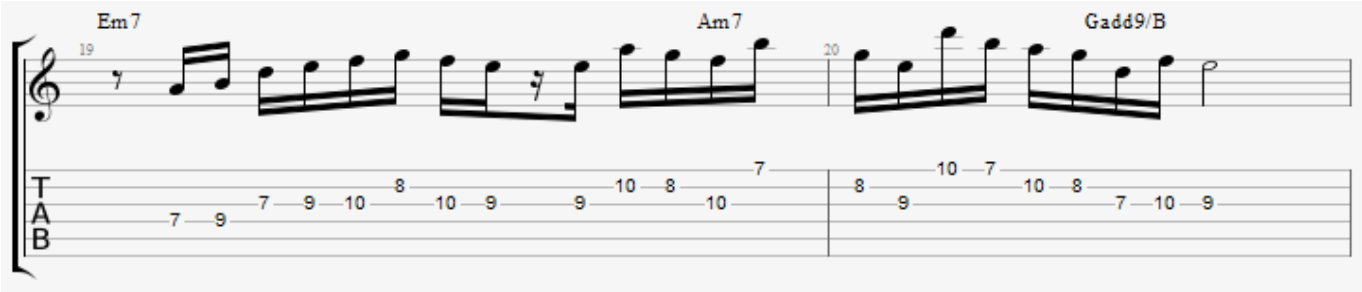
試しに、上記の譜例上でソロを弾いてみるとこんな感じです。

譜例 6、リードプレイ



※次ページに続きます

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved



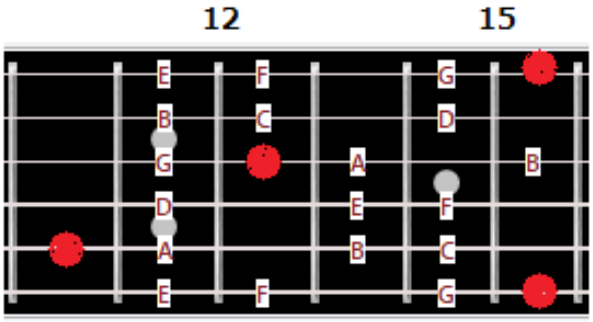
こう言った感じで、フリジアンのパターンを作りたい時は、前回(vol.20)のテキストを参考に、コードの役割や全体の響きを意識しながら組み合わせを作ってみると、雰囲気をコントロールする事が出来るでしょう。

■スパニッシュ・8・ノート・スケールとの関係性

さて、実はフリジアンスケールは、そのまま弾くと以外にエスニック(民族的)な雰囲気を持っているのですが、構造の近いスケールに「スパニッシュ・8・ノート・スケール」と言うものがあります。(※もしくはそのまま「スパニッシュ・スケール」とも)

恐らく名前は聞いたことがあると思いますが、インターバル的には、フリジアンに M3rd を加えた 8 音構成になっているものですね。

図、E スパニッシュ・8・ノート・スケール、6 弦トニック、重要ポジション



(※赤丸が M3rd の位置)

スケールの構造がほぼ同じと言う事は、そこから成り立つダイアトニックコードも多くが一致していると言う事なので、フリジアン的な進行の上でスパニッシュ・スケールが使える場合があります。

例えば、前回のテキスト(vol.20)や、vol.13 でリディアンと対比させるために出てきた Em－F に近い進行で、E－F(I－♭II)と言うスパニッシュの代表的な進行がありますね。

正確には、少し気を付ける必要がありますが、Em－F、E－F のどちらの進行でも、フリ

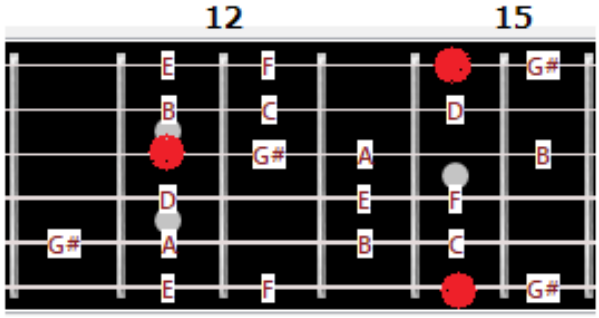
Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

ジアンとスパニッシュの両スケールを弾くことが出来ます。

後、ヴォイシングは何でもいいので、E－F－G 辺りのバレーコードを押さえて、ジャカジャーン、ジャカジャーンとやると、スパニッシュのそれっぽい雰囲気が味わえるのでやってみましょう。

最後にもう一つ、両者に構造が近いとして、ハーモニックマイナー・P5th・ビロウ・スケールがあるのですが、これは要するに、スパニッシュスケールから m3rd を抜いた形になっています。

図、EHmp5↓スケール、6 弦ルート、重要ポジション



(※赤丸が m3rd の位置)

なので E フリジアンと EHmp5↓スケールを混ぜて弾くと、それは結局 E スパニッシュ・スケールになる、と。

そしてこれはジャズ系の論法ですが、EHmp5↓スケールがマイナーキーのＶ 7 に対応したスケールなので、そこから派生して、Ｖ 7 の上でフリジアンやスパニッシュを使う、と言う事もあったりします。

この辺り、今回の趣旨ではないので割愛しますが、この様に構造や響きを理解していると、特定の範囲だけでなく、様々な場面で少し違った角度から知識を活かせるようになってきますので。

そういった能力を得る事こそが、学習の本当の意味だと思うので、どんどん視点を広げていくように知識を身に付けていってほしいと思います。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved